

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

603-608

事務事業名	まちづくり交付金事業 道路整備				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	建設部	課等名	土木課		包含する細々目	1	8	2	3	11	8	99,000
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心して快適なまちづくり											
施策	46 活気ある街づくりの推進											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要						
		事業期間	18	年度～	20	年度						
												街並み・まちづくり総合基本計画 都市再生整備計画(飯田橋南第二地区)
												都市再生 条例等

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	本事業区域内にある歩車道。	整備対象路線延長(m)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする	
			1650	1650			
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
目的の記述	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	利用者や居住者にとって、安全で快適な歩車道となる。	改良率(%) = 整備済み延長 ÷ 整備必要延長	18目標	19.8	最終目標	100	20
			18実績	25.1	19目標	65.6	↑
			23目標		23実績		最終目標達成年度
			18目標		最終目標		
			18実績		19目標		↑
		23目標		23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	都市再生整備計画指定エリアのなかで、これに関連する歩道・側溝・車道の整備を行い、歩道のバリアフリー化をはかる。 計画路線延長 L=1,650m	18年度の実績 歩道整備(インターロッキング舗装・側溝整備) ・市道1-4号 伝馬町銀座線 銀座3丁目 L=51m ・市道1-2号 通り町主税町線 通り町 L=114m ・市道飯田1号線 本町1丁目 L=113m ・裏界線17号線 L=50m (電線共同溝整備工事L=227m 本町・通り町) ・市道2-1号 水の手線 扇町 L=87m	整備延長:m	415
	19年度計画 歩道整備(インターロッキング舗装・側溝整備),道路舗装 市道1-3号 水の手線 扇町 L=142m 市道1-4号 伝馬町銀座線 銀座1~5丁目 L=295m 飯田1号線 追手町1丁目 L=103m	整備延長:m	540	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源	49,200	27,620
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
一般財源	73,800	71,380	
事業費計(A)	123,000	99,000	
人件費	正規職員所要時間	18年度 260	19年度 260
	臨時職員等所要時間	10	10
	人件費計(B)	941	941
	トータルコストA+B	123,941	99,941

特定財源内訳や補足事項	まちづくり交付金(対象事業40%補助)
-------------	---------------------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	人や物が集まり活気がある。	まちなかの6スポットの1日あたりの延べ歩行者数 (本町1、銀座3、りんご並木、知久町1、駅前、中央通り4)	現状値	8942	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	9200
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
橋南第1・2地区市街地再開発事業に伴い再開発事業区域周辺の整備を行う。主に歩道の段差解消と併せて側溝整備を行い、快適な歩行者空間の確保を実現させるために開始した。	平成11年度より都市再生推進事業区域内(10.8ha)の歩道整備を重点に実施。18年度より都市再生整備計画により整備区域を18.5haに拡大し、橋南第二地区市街地再開発事業周辺の道路整備を実施。	完了部分は、段差解消後の歩道について「歩きやすい」と好評であり、引き続き強い要望がある。さらに、バス路線を中心とする舗装整備要望が強い。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がない (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当でない (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	都市再生整備計(飯田橋南第2地区)による歩車道整備を実施する。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	地元・関係機関との調整を密に行い、隣接する商店、市民への影響を最小限にとどめるように工事を実施し早期完成を目指す。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	